

おたり

議会だより

Photo: 山を見渡す獵友会員

特集 村づくり

『おたりの未来に向けて』村民インタビュー

小谷を知っているからこそ行動できる！

熊の出没に対応する『まもりびと』！



発行: 小谷村議会 編集 議会広報委員会
 〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村 TEL 0261-82-2001 FAX 0261-82-2232
 印刷: 株式会社プラット



新年のごあいさつ



小谷村議会議長

宮澤 正廣

小谷村の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より議会活動に対し、温かいご理解とご協力をいただきしておりますことに、深く感謝申し上げます。

あり、2024-2025シーズンは賑わいのある状況となりました。一方で、観光客の増加に伴い、マナー等についてのご意見も寄せられております。

また、物価高騰が続く中、日々の生活に影響を感じておられる方も多いことと思います。今後も厳しい状況が予想される中、村全体での支え合いが一層大切になると考えております。

さて、令和7年は、平成7年豪雨災害から30年という節目の年を迎えました。改めて当時を振り返り、災害の恐ろしさを忘れず、次の世代へ伝えていく大切さを強く感じております。

そして基幹産業であるスポーツ場をはじめとした観光については、インバウンド需要の回復も

本年5月には、現議員の任期満了を迎え、春には村議会議員選挙が予定されています。新たな視点と、これまで大切にされてきた伝統や文化が生かされ、より活気ある小谷村につながることを期待しております。

結びに、皆様にとつて笑顔あふれる、実り多い一年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



平成18年

- ・小谷小学校開校
- ・人口 3,854 人



議員定数 14 → 10 名

平成26年

- ・長野県神城断層地震発生
- ・住宅等被害戸数 422 戸
- ・人口 2,964 人



議員定数 10 名

令和2年

- ・日本国内でコロナウイルスが確認
- ・人口 2,647 人



議員定数 10 名

小谷村議会の歴史



小谷村が誕生して68年目を迎えます！
同じく小谷村議会も68年、村のあゆみとともに議員の定数も変わっています！

昭和 33 年 4 月

- ・南小谷村・中土村・北小谷村が合併、小谷村が誕生！
- ・人口 8,640 人



議員定数 22 名

昭和 42 年

- ・南小谷小学校新校舎竣工
- ・人口 6,341 人



議員定数 22 名

昭和 46 年 11 月

- ・小土山の地滑り
- ・人口 5,690 人



議員定数 22 名

昭和 57 年

- ・特急あずさが南小谷駅へ乗り入れ
- ・人口 5,061 人



議員定数 18 名

昭和 51 年

- ・統合中学校の議論で議員 7 人が辞職願提出（不許可）
- ・人口 5,142 人



議員定数 18 名

昭和 49 年

- ・梅池自然園開園
- ・人口 5,345 人



議員定数 22 → 18 名

昭和 61 年

- ・千国大橋竣工
- ・人口 4,675 人



議員定数 18 → 16 名

平成 6 年

- ・梅池ロープウェイ完成
- ・人口 4,397 人



議員定数 16 → 14 名

平成 16 年

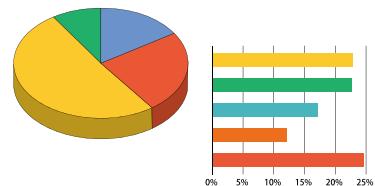
- ・平成の合併論議、住民意識調査結果により小谷村自立へ
- ・人口 4,122 人



議員定数 14 名

結論出ず！今春の村議選は定数10名で！

12月定例会で現状報告を行いました。定数については、アンケート結果、についても「慎重に検討」となり、今後もさらに議論をすることとなります。



アンケート結果から

【アンケート結果に捉われない】

回答者が少ないため、少数意見である。参考資料と受け止める。

【アンケート結果を参考にすべき】

村民の意見が参考になった。さらに検討すべき。

【アンケート結果に捉われない】

回答数が少ないので、参考にはするが結果に縛られる必要ない。

【アンケート結果に捉われない】

実情に沿った定数・報酬とすることが望ましい。

【アンケート結果を参考にすべき】

60%ある「定数を削減すべき」の意見、特に30～50代の村民の意見を尊重すべき。

【アンケート結果を参考にすべき】

アンケートは村民には告知されている。アンケート結果を尊重すべき。

【アンケート結果に捉われない】

あらゆる角度から検討必要。

【アンケート結果に捉われない】

村民の半分以上の意見を反映するべきである。

【アンケート結果に捉われない】

村民にいきわたらないアンケートである。

【アンケート結果を参考にすべき】

人口減少の現状から、財政負担を考えるべき。

住民懇談会での意見

定数や報酬の議論よりも、まずは住民の声や意見をくみ上げる活動をしてほしい！



若い方が議員として手を挙げられる環境を望む。定員不足にならないように！



知り合いが議員であり「議員活動は大変だ！」とも聞いている。皆さんの活動もSNSなどでもっと発信してほしい！



もっと村民の声を聞く姿勢を持ってほしい。報酬も歩合制にすればいい。



それなりの報酬でしっかり活動してほしい。若い人も議員になってもらいたい！



議員の定数・報酬について、様々な意見が！



定数・報酬の議論は継続して行われる。

議員定数・報酬議論は

令和7年6月より議論を重ねてきた議員定数及び報酬について、現職議員の意見などから「本年4月の選挙は定数10のまま」、報酬ました。今後も引き続き、定数・報酬について調査検討を進めていき

議員名	議員の定数について	議員の報酬について
横澤 匠	現状維持 外国人も増加し、今までにない課題が多くなる。課題解決のため多くの意見を取りまとめる必要がある。	現状維持 物価高騰の時代で議員個人の支出も増加しているが、昨今の小谷村の状況下では現状維持でよい。
田原富美子	現状維持 議員定数減は、地域や集落の声が行き届かなくなる。議会内の委員会での議論も現人数は必要である。	増やすべき 今の報酬では、若年層の議員のなり手はいない。報酬だけでは生計が厳しい。
柴田友造	現状維持 議会は合議制機関のため、なり手不足、選挙戦とは無関係。小規模地域からの議員排出を阻害し、地域の声が届かなくなる。	増やすべき 物価高騰の時代、15年間議員報酬が据え置きである。議員報酬では生計が成り立たないほどの低水準である。
清水秀雄	現状維持 小谷村の広さから、現行の定数は必要。定数の削減は、人口の多い地域の議員割合が高くなると感じる。	現状維持 議員報酬の有無で活動はしていない。
相澤 稔	定数削減すべき 無投票での議員選出は望ましくないと考える。アンケート回答数は少ないが、「削減」との意見を尊重すべき。	増やすべき 村の人口や財政規模も考慮すべき。同規模自治体の水準が望ましい。
深澤英喜	定数削減すべき 特別委員会を立ち上げた経過は議会改革である。村民アンケートの結果から、「削減」を尊重すべき。	増やすべき 議員定数を減らすことが前提であれば報酬の増額をしてもいい。
吉岡久人	現状維持 面積が大きく、災害が多発する小谷村である。議員減は人口減少地域の少数意見も把握できなくなる。	増やすべき 十数年、同一額の報酬であり物価高である。同規模町村と比較しても増やすべき。
吉澤 学	現状維持 次期選挙は現状維持、次々回選挙は減らす。村民アンケートで削減が70%以上なら削減すべき。	増やすべき 今の報酬では安すぎる。給与や報酬が増加している時代である。
曾根原恵子	現状維持 小谷村の面積を考えると、議員減は地域の声を拾いにくくなる。議会内でも討論の質が低下する。	増やすべき 議員の職務と報酬額が釣り合っていない。若年層のなり手のためにも増やすべき。
宮澤正廣	定数削減すべき 人口に見合った定数にすべき。アンケートの30~50代の意見を重視すべき。	増やすべき 若い方が担えるように増額すべき。議員年金も廃止されたので報酬は見直すべき時がきている。

12月定例会承認・議決結果

12月定例会

番号	件名	審議結果
報第20号	令和7年度小谷村一般会計補正予算（第6号）の専決処分報告	承認
報第21号	損害賠償の和解並びに額を定めることの専決処分報告	報告
議案第55号	令和7年度小谷村一般会計補正予算（第7号）	可決
議案第56号	令和7年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第57号	小谷村一般職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第58号	小谷村特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第59号	小谷村議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第60号	令和7年度小谷村一般会計補正予算（第8号）	可決
議案第61号	令和7年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	可決
議案第62号	令和7年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第63号	令和7年度小谷村簡易水道事業会計補正予算（第3号）	可決
議案第64号	令和7年度小谷村下水道事業会計補正予算（第2号）	可決

番号	件名	
発議第6号	診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬10%以上の引き上げを求める意見書（案）について	採択
発議第7号	免税軽油制度の継続を求める意見書（案）について	採択



しばた ゆうぞう
柴田 友造 議員

動画はこちらから ▼



地域の支援、振興をするために！ 官民連携の地域公社が必要！

問行政において、産業振興に関するアイデアなければ、外部団体などに任せことはいががか。地域課題や支援、また、その活動を担

問小谷村のキハダ出荷量約900kgであり、産物のキハダ栽培は農林業・医療・教育をつなぐ新しい『小谷モデル』となる。未来の資産を作るために、行政・生産者等が連携して将来を見据え取り組みができないか。

答観光地域振興課長 将来を見据えた取り組みは重要である。組織づくりから検討する必要がある。

問村所有の営農機械の更新と集落営農を含む支援は。それぞの支援については検討中。集落営農間が互いに協力し合う体制と仕組みづくりが必要と考える。

答観光地域振興課長 そ

農林業施策の取り組みについて

う組織である地域公社を設立しては。人的には興味がある。課題解決に向けて必要と思う。研究をはじめる。



産業振興に向けた対応は急務！

あいざわ
相澤 稔 議員

動画はこちらから ▼

南小谷駅南のバイパス合流に課題！ 安全を考慮し信号機設置を！

問行政において、産業振興に関するアイデアなければ、外部団体などに任せことはいががか。地域課題や支援、また、その活動を担

問從前の質問時には、「月岡合流地点の信号機は設置しない」との回答であったが、現在も同じ考え方か。

答建設水道課長 現在も変わりはない。

問從前の質問時には、「月岡合流地点の信号機は設置しない」との回答であったが、現在も同じ考え方か。

答建設水道課長 現在も変わりはない。

問南小谷駅南のバイパス合流箇所に信号機が設置されていないが安全対策上問題はないか。

答村長 合流する際に、車両の確認がしにくいとの声もある。まだ事故の報告はないが、ミラー設置など安全対策については要望していく。



月岡合流地点の安全を確保できるか？

▶ 二次元コードをスマホで読み取ると動画が見れます

よこざわ 横澤 たくみ
議員

動画はこちらから ▼



増加するインバウンド観光対策を！

問訪日外国人観光客や
小谷村に住む外国人が

問事業者向けの店舗等
リフォーム支援の必要
性の意見が商工会から
も出ているが。



今冬もインバウンド観光が盛んになる！

問グリーン期の需要喚起策
が必要とのことだが、具体的
に何をすればいいのか。

答観光地域振興課長 梅
池自然園を軸とした村内コ
ンテンツについてインフル
エンサーを活用して誘客対
策を行う。

問グリーン期の需要喚起策
が必要とのことだが、具体的
に何をすればいいのか。

答観光地域振興課長 梅
池自然園を軸とした村内コ
ンテンツについてインフル
エンサーを活用して誘客対
策を行う。

問グリーン期の需要喚起策
が必要とのことだが、具体的
に何をすればいいのか。

答観光地域振興課長 梅
池自然園を軸とした村内コ
ンテンツについてインフル
エンサーを活用して誘客対
策を行う。

問グリーン期の需要喚起策
が必要とのことだが、具体的
に何をすればいいのか。

問マナー条例の設置につい
てどう考えているのか。

答観光地域振興課長 今
後に向けて、調査研究を実
施している。

問マナー条例の設置につい
てどう考えているのか。

答観光地域振興課長 今
後に向けて、調査研究を実
施している。

問マナー条例の設置につい
てどう考えているのか。

答観光地域振興課長 今
後に向けて、調査研究を実
施している。

よしおか ひさと
吉岡 久人 議員

動画はこちらから ▼



熊が人里へ！ 有害駆除に携わる猟友会員の確保を！

問緊急銃猟の村の対
応は。

答村長 国から4つの
条件が示され、3支部
長及び警察と打ち合わ
せを実施した。まだ未
確定部分が多く、具体
的なマニュアル作成に
は至っていない。



捕獲に有効なくくり罠を設置する猟友会員

問猟友会員の育成に向けた
村の対策は。

答村長 会員確保のため、
免許の更新や新規取得費用
の補助を実施。会員確保は
課題と感じているが妙
案はない。

問猟友会員の育成に向けた
村の対策は。

答村長 会員確保のため、
免許の更新や新規取得費用
の補助を実施。会員確保は
課題と感じているが妙
案はない。

問小谷68歳、中土58歳、北
南小谷61歳、中土58歳、北
小谷68歳。

問全国的に熊の人的被害と
異常な出没が問題となつて
いる。村の状況は。

答村長 11月末の春熊猟を
除いた捕獲数は42頭。駆除
活動を依頼する猟友会につ
いては、村内では3支部あり、
会員数は39名、平均年齢は、
61歳。

問全国的に熊の人的被害と
異常な出没が問題となつて
いる。村の状況は。

答村長 11月末の春熊猟を
除いた捕獲数は42頭。駆除
活動を依頼する猟友会につ
いては、村内では3支部あり、
会員数は39名、平均年齢は、
61歳。

問全国的に熊の人的被害と
異常な出没が問題となつて
いる。村の状況は。

答観光地域振興課長 玉の
購入支援よりも、鳥獣の捕
獲単価を再検討している。
猟友会の意見を聞いた上で
対応したい。

問全国的に熊の人的被害と
異常な出没が問題となつて
いる。村の状況は。

答観光地域振興課長 玉の
購入支援よりも、鳥獣の捕
獲単価を再検討している。
猟友会の意見を聞いた上で
対応したい。

問狩猟用の玉の価格が高騰
している。玉の購入支援は
考えているか。

問狩猟用の玉の価格が高騰
している。玉の購入支援は
考えているか。



よしさわ 吉澤 まなぶ 学 議員

動画はこちらから ▼



「大糸線の議論」結論は早く出すべき！

問 物価高騰対策は。
答 村長 9月末まで商品券配布事業実施済み。今後の対策は、国の動向を注視する。

問 大糸線の今後の考えは。
答 村長 鉄路を維持していくことを考えていきたい。国の関与も含め、要望していく。

問 大糸線のあり方について、どのような協議をしていくのか。
答 村長 令和8年度より議論を行う。廃線ありきの議論でない。



南小谷駅が開業して90年、今後路線の協議が行われる！



ふかさわ 深澤 ひでき 英喜 議員

動画はこちらから ▼



やりがいのある職場環境づくりに向けて！

問 副村長の基本姿勢として今後の方針は。
答 副村長 「移住定住を促進するための環境整備」「観光産業の更なる発展を支えるためのインフラ整備」「安定期的で持続可能な二次交通形態の構築」などに力を入れる。課題を含めて、総合計画の目標実現に向けて取り組む。

問 地域との協働取り組みや信頼関係の構築は。
答 副村長 村民と行政が協働して進める村づくりを行うため、様々な考え方や意見を聞き、地域の合意形成を図りながら進めていく。



意識を共有できる職場

問 移住定住促進住宅の建設中止の原因は資材高騰との説明、今後の対応は。
答 村長 資材及び人件費の高騰、また設計に係る費用も不足とのこと。今年度は中止し、令和8年度に実施できるよう進めている。

問 村道の草刈りについて効率的な対策は。
答 村長 機械作業の導入による効率的な草刈り作業については考えていらない。地域コミュニティの維持につながるので今後も現状どおり協力をお願いしたい。

問 職員に対する庁内マネジメントについては。
答 副村長 職員一人一人がやりがいを感じて、力を発揮できる職場環境を整え、庁内全体で情報・意識を共有できる組織を目指す。

問 観光地域振興課の業務量と今後の対応は。
答 副村長 設置当初と状況が変化している。今後は、雨中地区活性化や観光開発など対応も含めて組織改革を考えている。

問 物価高騰対策は。
答 村長 9月末まで商品券配布事業実施済み。今後の対策は、国の動向を注視する。

問 大糸線の今後の考えは。
答 村長 鉄路を維持していくことを考えていきたい。国の関与も含め、要望していく。

問 大糸線のあり方について、どのような協議をしていくのか。
答 村長 令和8年度より議論を行う。廃線ありきの議論でない。

問 副村長の基本姿勢として今後の方針は。
答 副村長 「移住定住を促進するための環境整備」「観光産業の更なる発展を支えるためのインフラ整備」「安定期的で持続可能な二次交通形態の構築」などに力を入れる。課題を含めて、総合計画の目標実現に向けて取り組む。

問 地域との協働取り組みや信頼関係の構築は。
答 副村長 村民と行政が協働して進める村づくりを行うため、様々な考え方や意見を聞き、地域の合意形成を図りながら進めていく。

▶ 二次元コードをスマホで読み取ると動画が見れます

そねはらけいこ
曾根原恵子議員

動画はこちらから ▼



開発行為、地域住民の同意は不可欠！ 転売・村民流出 観光振興策と開発規制を！



開発に地元同意事項を
開発行為については近隣住民の一定の同意が必要。村の規定では「住民同意事項」が含まれているか。

答村長 一定規模以上の開発行為計画の場合、事前協議の中で「近隣・利害関係者」の同意求めている。

間地価高騰の問題と、土地の転売防止策など、村の明確な指導基準は。

答村長 村では明確な指導基準や制限を設けていない。間宿泊業を廃業・施設を売買して転出していく状況が増加、行政で現状を分析し、観光地域づくりを考えているべきでは。

間宿泊税をどう活かすか

答村長 課題があることは認識している。転売、転出を規制できない現状である。



存続が議論されている「虹の家」

光振興体制の整備を検討している。

間村へ配分される交付金の使途は、今後の観光方針を策定した上で活用すべきでは。観光担当課からも要望に充当したい。

老人保健施設「虹の家」 継続は民意

間「虹の家」廃止の報道により不安の声が届いている。医療・介護消失の危機と捉えるが。

答村長 住民の意見を重く受け止め、最善の在り方を検討する必要がある。

間埋設処理には、穴を掘る重機や石灰など適正な処理のために必要な物品があるが。

答観光地域振興課長 対応できることは行いたい。

間獣友会の出役報酬について単価改正は。

答村長 物価上昇、燃料高騰などのほか、緊急突発的な出動もあり、報酬単価の改正の要望はある。獣友会と相談の上、改正について検討していく。

動画はこちらから ▼

しみず
清水 ひでお
秀雄議員

有害鳥獣駆除に関する埋設箇所確保を！



有害鳥獣活動について
間捕獲駆除後の埋設場所の確保について、村としての対応は。

答村長 不足していることは承知している。適正な処理をするべく、村有地を中心確保していく。

間民間住宅建築補助金について現在の進捗状況

答小谷村民間住宅建築補助金について現在の進捗状況を伺う。

門職として雇用する公務員だと思っている。非常勤職員として採用している自治体もある。一般職として設置することはできない。

問補助金での支援内容の情報発信の不足感があるが。

答総務課長 情報発信に努力する。

問ガバメントハンターの設置について村長の見解は。

答村長 有害鳥獣の駆除専



駆除した鳥獣の慰靈を行う獣友会！



令和7年12月2日、小谷村議会主催の住民懇談会を開催しました。課題と対策、将来に向けての要望や意見をいただきました。ここでは、意見の中の一部を紹介します。

移動手段に不安！

学校へ通う子どもたち、朝6:30には家を出る。始業時間の変更、バス時間見直しなど考えてほしいですね！

高齢者もやりたいことを積極的にできることが望ましい。高齢者が安心で活発に利用できる移動手段が大事！



早朝から登校する子どもたち！



多世代交流を！(おたりつぐら)

福祉の充実を！

高齢者、障がい者、子育て世代、子どもたち、みんなが寄り添える場所の確保が大事です！

病院への付き添いや送迎がとても助かった。高齢者への支援や訪問、相談など継続して活動を！福祉従事者的人材確保を！

安心して暮らしたい！

小集落は人口減から、連絡員や会計の人材も限られる。
互いにサポートしあう取り組みをしていかないと！

転出者が増加している。近くの方も転居され将来が不安である。除雪や車の運転、これからどうなるのか？



共同作業は小谷村の象徴！



地域の活性化を考える！

通過されない村へ！

雨中月岡バイパスの開通により通過される村になった感じがする。朝市などイベントで商業地帯を作るなんてどうかな！

南小谷駅周辺の課題を取り上げるべき！JRの問題、月岡合流地点の交差点など解決すべきことは多々ある！

声！村づくりへの期待！



何かやらないと！



北村 正さん
H 6～(3期)

人口減、過疎によりさみしい環境になってきた。仕事がないのか、産業がないのか、若い人が少ないことが気になる。

小谷村の**環境を利用した産業**を作るべき。いま、エネルギーの活用が盛んなので、村の資源を利用した産業ができるのか？**森林資源、水資源も村の財産**であり、活用策を考えてほしい。

何かやらないと、このまま衰退するだけではさみしい。もっと昔みたいに、行政と住民の距離感を縮めなければ！

期待



時代にあった取り組みを！



猪股充拡さん
H26～(2期)

今の学校教育は、各自パソコンで学習していく時代。デジタル、ペーパーレス、データ保存など教育のスタンスも変わっていく。大人もそれに**追いつかなきゃいけない**！

政策・教育だけでなく村全体が、今の**時代に合わせたスタンス**で進めていくべきである。教育環境の進化にもあるように、慣例の手法の見直し、そして令和の時代に適合していくような取り組みが必要。小さな小谷村だからできる！

期待



議員OBの



藤原賢司さん
H18～（4期）

「雇用なくして村の発展なし！」

期待

小谷村の資源をもっと活かした取り組みが必要。

森林資源も含め、資源活用する方策を進めなければならない。この村でも、○○の里など、テーマに特化した取り組みをしてもいいのではと思う。それには、**企業との提携や誘致**など外部との関係の構築を進めて欲しい。とにかく**産業・雇用につながる政策**が必要。人を大切に、働き手を大事にする村になってもらいたい。



高橋正宏さん
H22～（2期）

「支えあいの村づくりを！」

期待

高齢であっても安心して生活できる環境を目指すべき。人口減少は歯止めが利かないが、高齢者が小谷村で生活していくには、高齢者同士の助け合いも必要。

特に**65歳以上の方々が地域貢献や高齢者支援活動に積極的に参加し、住民を支えあう環境**ができるのを期待したい。シルバー世代が、地域のため住民のために活躍することは、村づくりの土台になると思う。



おたりの 未来に向けて

こんな田舎にも未来があると信じ、前向きな活動を進めていく
村民はたくさんいます。これから的小谷村を元気づけようと考え
てくれている2人の方に、これから村づくりの思いを語つても
らいました。



岡田彩香さん（里見）

神奈川県出身 2021年に結婚を機に小谷村
へ移住。結婚支援員として活動

あたたかさのある地域！

小谷の良さを

岡田さんは神奈川県出身で平成26年には、長野県飯島町において、地域おこし協力隊として活動していました。協力隊としての業務は「結婚による移住・定住」です。婚活イベントなどの開催のほか、新居とする空き家改修、女性限定のシェアハウスなども手がけてきたことがあります。



イベントでMCをする岡田さん

結婚による移住定住！

仕掛け人として

小谷村里見地区の岡田彩香さん。小谷村の結婚支援員を任命されています。村から委託を受け「婚活イベント」の仕掛け人です。

岡田さんは神奈川県出身で平成26年には、長野県飯島町において、地域おこし協力隊として活動していました。協力隊としての業務は「結婚による移住・定

参加者には
自信を持たせたい！

達成感がある役目！

広域的活動も！

岡田さんが手がけたイベントのカップルは50組を超えるそうです。村の婚活イベントも3回企画しています。「婚活＝きっかけ」「とにかく出会いの場を与えること、そして自信を持って参加してもらうことが大事」という岡田さん。企画からMC、そしてアフターフォローも行います。

カップル成立はものすごく達成感がありうれしいとのことです。人生は選択の連続、参加することも選択、結婚するのも選択、自分の選択に自信を」が、岡田さんからの言葉です。何事も自分で決めることが必要とのことです。「婚活は広域で行うほうが参加しやすい環境なので」と次の構想も持っていました。

最後に「小谷村は良いところ、顔が見える、地域もあたたかい」「今後もこの村でさらに貢献していきたい」と目を輝かせて語ってくれました。

小谷の景観を守りたい！

小谷村を知った！

農家を知った！

大きな転機があつたのは住み始めて5年、縁あって当時の大北農協の農業課に勤務することになりました。



深澤 勉さん(梅池)

平成10年結婚を機に小谷村へ

JAや農業法人などの農業分野の業務に携わる。小谷村農業委員会会長に在任中。

の愛称です。「ベンちゃん頼んだぞ！」こんな声をよく聞きます。

農家との信頼関係も築き、北は大綱から南は地元梅池まで飛び回つて農家支援を行つてきました。

しかし深澤さんは「梅池に住んでいる以上、まずは自分の地域を守らないと！」が今の心境です。

インバウンドブームで開発などの話もありますが、「この梅池の田んぼを見るのが好き」田んぼも維持しながら生活できる環境を望んでいました。

かく親切に教えてもらつた」とのことです。「特に当時仕事でお世話になつたのは深澤瞬三さん。助かった」と語つてくれました。多くのことを学ぶことができたとのことです。

農業を理解することで、農家の支援、農地の保全として、農作業受託をすることにより、さらに多くの農家とかかわるようになります。」「ベンちゃん」は深澤さん

「子どもに帰つて来い！」といえる小谷村に！

農家が衰退するばかりでなく、小谷村の今後にも不安があるそうです。「帰りたい若者がいるが、不安が大きい！」深澤さんの本音です。

不安は産業、生活環境、子どもの減少などたくさんあります。

「子どもに帰つて来い！」といえる小谷村にならなきやいけないのでほど意見してくれました。

また、農業をしたい移住者もたくさんいるとのことです。小谷村の特徴を活かす「農業」+「冬の産業」の強化を望んでいます。「年中暮らせて、生活できる季節ごとチャレンジできる環境の提供」。こう願つて、今春からの事業構想を練つてきました。

地域の皆さんのおかげ！

「小谷村に来たときは全く知り合いがいなかつた」と語る深澤さん。結婚を機に梅池へ来て、右も左もわからなかつたが最初に梅池の事業所に勤務することで近所の方と知り合いました。「とに

かく親切に教えてもらつた」とのことです。「特に当時仕事でお世話になつたのは深澤瞬三さん。助かった」と語つてくれました。多くのことを学ぶことができたとのことです。

農家を支援したい！

農業を理解することで、農家の支援、農地の保全として、農作業受託をすることにより、さらに多くの農家とかかわるようになります。」「ベンちゃん」は深澤さん



深澤さんが大事にしたい地元の農地

季節ごとチャレンジできる環境の提供」。こう願つて、今春からの事業構想を練つてきました。

片品村議会が視察に
～類似する環境と課題～

11月21日、群馬県片品村

議会が小谷村へ視察に訪れ、宮澤議長と懇談を行いました。尾瀬と梅池、渓谷型の地形など小谷村と似ている環境である片品村です。観

光業、農林業、事業継承など小谷村の状況を質問されました。

人口規模は、小谷村の1・5

倍ですが、小学生の数は小谷村より少ないこと、特に小谷村移住対策の取り組みに感心していました。

最近の片品村においては令和7年の熊の捕獲数は80頭以上、また議員定数を12名から9名へ削減するとのことです。



片品村議会議員のみなさん

千国北城線整備計画
～白馬小谷議員研修～

白馬村・小谷村両議会での研修会を11月17日に開催し、現在計画予定の県道千国北城線の梅池以北の整備予定箇所の視察を行いました。

竹内副村長から、整備概要や計画案について両村の議員へ説明いただきました。

「災害対策として道1本では足りない！」その上で、緊急時の代替え路線の確保の必要性が重要のことです。

インフラ整備の目的と効果を理解し、道路政策を考えていいく必要があります。



梅池から乗鞍方面へ 千国北城線の整備計画

山を熟知し、動物の生態も理解する！小谷を知る猟友会！



表紙のひと 西澤幹男さん 北村利幸さん（猟友会南小谷支部）

「今年の熊の出没は異常だな！」

12月上旬の猟期、山を見渡しながら語ってくださいました。西澤さん、北村さんは、本年のクマ駆除活動に尽力された猟友会の会員です。主に中小谷エリアで、住民などからの被害連絡を受け、罠や檻を設置して対応してきました。

なぜこれほど生活圏に熊が出没したのかという問い合わせに、西澤さんは「奥山で実がならず、里山まで熊が下りてきた」と話します。生活圏に熊が集まつたことが、多くの目撃情報につながったとの見解です。

「奥山を縄張りとしている大きな熊でさえ、里へ下りてきている」と、熊の特徴や山の状況を、長年の経験をもとに分析してくださいました。

最後に、「人的被害がなくて本当によかった」と、安堵した表情を浮かべるお二人の姿が印象的でした。



物価高が続き、日々の買物でも負担を感じる場面が増えています。そんな中、不安な気持ちにつけ込むよう、SNSを利用した詐欺の被害が後を絶ちません。少しでも「おかしいな」と感じたときには、周囲に相談することが大切です。

また、各地で熊の目撃情報が相次ぎ、身近な自然との付き合い方を改めて考えさせられます。熊との遭遇は、地域全体で情報を共有し、備えていくことが欠かせません。

物価高や詐欺、熊の出没など、暮らしの周りには心配事が重なる時代です。だからこそ、正しい情報を確かめ合い、声を掛け合いながら、安心して暮らせる地域をみんなで守っていきたいのです。

編集後記